

AA 研共同研究プロジェクト  
社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して

## 融合・共同研究の現場 — サブサハラアフリカ地域での制度と実際 —

白石 壮一郎

JSPS Nairobi Research Station / 京都大学アフリカ地域研究資料センター

### 0. 自己紹介

#### ・ 研究内容

「東アフリカ農村社会における農業の商業化と共同性の再構築に関する人類学的研究—ウガンダ、サビニ社会の事例」（博士論文、京都大学、2011）

#### ・ 現職

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター 駐在員（センター長）

### 1. 海外調査研究拠点 —Nairobi JSPS について

- ・ 世界で 10 カ所ある学振在外事務所のひとつ（1965～ ）
- ・ 4 つのミッション：①日本人調査者への便宜供与、②サブサハラアフリカでの高等教育・学術行政についての情報収集、③日本人研究者とアフリカ人研究者との学術交流推進、④日本人研究者のアフリカ研究成果のプロモーション
- ・ 日本人利用者：社会・文化人類学、霊長類学、自然人類学、古生物学、地理学、地質学、言語学、農学などジャンルは多岐にわたる

### 2. 共同研究などの制度 —JSPS の諸プログラム

- ・ 外国人特別研究員派遣事業（ポスドク）
- ・ 研究拠点形成事業（B.アジア・アフリカ学術基盤形成型；最長 3 年間、800 万円以内／年）
  - 拠点機関どうしの持続的協力関係確立、若手研究者育成。共同研究、セミナー、研究者交流を組み合わせ実施。
- ・ 論博取得希望者に対する支援事業（アジア・アフリカ）
  - 常勤の者の博士号取得。1 年 1 回、延べ 30 日間以上（上限なし）の日本研究滞

在（120万円以内／年、総額360万円、おもに旅費）。日本からも相手国に滞在。

- ・ 科学技術研究員派遣事業（dispatch、JICAとの連携事業、ODA対象国で実施）
- ・ 二国間交流事業（ケニア；共同セミナー開催、共同研究を毎年1件ずつ）

### 3. 東アフリカ JSPS 同窓会の活動

- ・ ポスドクフェローの OB、OG によって組織
- ・ 上記事業への応募や参加に必要なネットワーキングの補助
- ・ JSPS 事業説明会の実施（会員の招きによって白石と会員が出張）
- ・ Bridge Fellowship（再招聘事業）の実施

### 4. 学術動向、開発・融合実践の現場

- ・ 実学新興・・・おもに農学、工学、公衆衛生学。「パブリッシュより特許を」。
- ・ 研究成果技術革新全国会議（ここ4年間毎年開催、JSPS共催）・・・ほとんどが上記のジャンル。若手中心。JSPS Nairobi の web サイトに 2011 年度会議の発表論文 78 編のタイトルと著者を掲載。
- ・ 1980 年代以降の大学定員の増大、大学院での指導体制の停滞
- ・ とくに理系は諸外国からの研究ファンド、開発支援プロジェクトとの提携が必須。ニーズのズレ、つまり「先進国」側からの需要は主にフィールドスタディーをふくむ上記ジャンルだが、アフリカ側からの需要は工学系、実験化学系も大きい。  
→ このギャップを埋めるためにも JSPS のファンド活用の意義がある。理系ニーズあってこそそのファンド。
- ・ 人文社会学系はなにをしているのか？（開発学全盛？）・・・2007 年 Makerere 大学シンポ以来のテーマである基礎調査をもとにした議論の意義共有の試み、日本のアフリカ研究成果の発信。

### 5. 展望

- ・ 対象地域との共同、をベースにした隣接分野への越境・共同の道。JSPS やそのほかのファンドを利用した理系の人たちのプロジェクトに人文社会学系の人がかみこんでいくこと。
- ・ JICA がおよそ 10 年ぶりに高等教育にプロジェクトの焦点をあてようとしている状況。
- ・ 地域開発プロジェクトへの人類学者、社会学者ほかの関与。中国、勧告の開発援助プレゼンスに対抗するには、日本のアフリカ研究の蓄積を比較優位と考えよ。